



利用者、職員共に礼拝に始まる朝礼

介護・福祉人材の 定着事例⑥

(調査時期：令和2年11月)

法人名・事業所名

社会福祉法人 万灯会 障害者支援施設 双樹園

所在地：羽島市桑原町小藪860番地
事業概要：施設入所、生活介護、
音楽・スポーツ・余暇活動

管理者の受容的態度と利用者・ 職員の拠り所があって、離職者ゼロに

人材定着の背景

障害者支援施設双樹園・共同生活援助くわばら荘では、長年にわたり定年退職者を除き離職者ゼロの状態が続いている。施設の活動の中心は、生活介護として行われる足袋や軍手を中心の生産活動であるが、合唱や打楽器、手話などを通じた音楽活動にも力を入れている。

羽島市の商工会長でもあった故岩田仲雄理事長の時代に、各地の高級旅館で入浴後に履く温泉足袋の需要と販路を開拓し、今日に至るまでの主力商品となっている。

利用者は入所利用者が30名、共同生活援助くわばら荘利用者が8名、通所利用者が6名であり、朝8時30分から活動を開始し、9時には職員、利用者全員で施設の2階のホールで観音様への礼拝にはじまる朝礼を行っている。

人材定着の取り組み

職員の離職防止・定着促進の取組として、①人事考課時のフィードバック面接、②職員から相談を持ちかけられた時の管理者の受容的態度、③年2回の職員間の食事交流会、④非正規の高齢職員への就労内容の相談や変更、⑤職員間での実践感動メモを取って互いに発表、といった取組に力を入れ、それぞれ職員定着につながっていると自己評価している。

中でも重点的に取り組み、効果が特に大きかったと評価しているのは、一つは人事考課における

フィードバック面接であり、管理者は職員の意見が出やすいよう、和やかな面接を心掛けているという。もう一つは、職員の声を「受容」という援助技術によりありのままを受け止めるとともに、できるだけ若い人の声を聞くようにしているという。職員の声を管理者側が聞いてくれること、そしてそれを実現できる雰囲気があることが離職者ゼロの理由では、との声も聞かれた。

職員にとって拠り所があること

そして、この事業所が職員定着に成功している最大の要因は、利用者も働き、職員も働くという施設環境であり、利用者も職員も同じ方向を向いて活動していることであると考えられる。また、職員の良好な関係づくりのキーマンとなる職場のリーダー的職員の存在も大きいという。毎朝の朝礼時に利用者も含め全員で観音様に合掌しているのであるが、そうした職員にとっての「拠り所」があることが奏功しているのかも知れない。

また、同法人では、企業活動の拠り所となる文言を行動規範とする「クレド※1」の手法を用いて職員の管理、法人の運営が行われており、職員がクレドを実践している様子を他の職員が見て感動したことを「クレド実践メモ」として書いて発表し、金一封の授与も行っているという。これが職員間の信頼関係の強化につながっているという。

※1 クレド：従業員が心がけるべき企業の信条のことで、企業活動の拠り所となる行動規範を簡潔に表現した文言



利用者と一緒に働く職員

人材定着につながる調査判定項目

今回調査対象とした項目
今回調査対象としていない項目

定期的な面談の実施

計画的な職員育成

負担軽減につながる
ロボット等の導入

処遇・福利厚生充実

新規入職者への
安心づくり

やる気につながる
職場カルチャー